

Japanese Patent Laid-open Publication No. 2002-183114 A

Publication date : June 28, 2002

Applicant : Yugen Kaisha Jeneshisu

Title : WEBSITE CREATION METHOD, WEBSITE BROWSING METHOD,

5 AND WEBSITE CREATION/BROWSING SYSTEM

[0007] Although it is easy to establish a new system ruling out the conventional structure in creating such a system, this causes unnecessary waste of the conventional resource.

10 [0008] The present invention has been achieved in order to solve the above problems. It is an object of the present invention to provide a website creation method, a website browsing method, and a website creation/browsing system that add a new value to the system without affecting the conventional website and its browsing system.

15 [0009]

[Means to solve the problems] Websites are created in a text in a predetermined format. A webpage creation method for the Internet according to the present invention includes a step of setting a specified command which is not recognized by a first browser, but recognized by a second browser  
20 different from the first browser, and a step of creating websites in a text including the specified command.

[0010] According to the present invention, websites are created in a text including the specified command not recognized by the first browser, but recognized by the second browser.

25 [0011] Since, generally, a document recognizable by the second browser is

**This Page Blank (uspto)**

recorded in an area not used by the first browser, the document content is recognized by a specified browser to be displayed on the website, not being displayed by the conventional browser.

5 [0012] As a result, a browsing system for a website that adds a new value is provided without affecting the conventional browser.

[0013] A comment text area is an example of the area not recognized by the first browser. Preferably, there is included a step of specifying the content on the website by a website creator, and describing the specified content in the specified command.

10

[Fig. 5]

General comment text

Comment text beginning with G@ is identification information of present application

15 General comment text

Identification information of present application

General comment text

Identification information of present application

**This Page Blank (uspto)**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2002-183114  
(P2002-183114A)

(43)公開日 平成14年6月28日(2002.6.28)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード <sup>*</sup> (参考)
G 0 6 F 17/21	5 0 1	G 0 6 F 17/21	5 0 1 T 5 B 0 0 9
12/00	5 4 6	12/00	5 4 6 A 5 B 0 8 2
13/00	5 6 0	13/00	5 6 0 A 5 B 0 8 5
15/00	3 1 0	15/00	3 1 0 R

審査請求 未請求 請求項の数8 O L (全 14 頁)

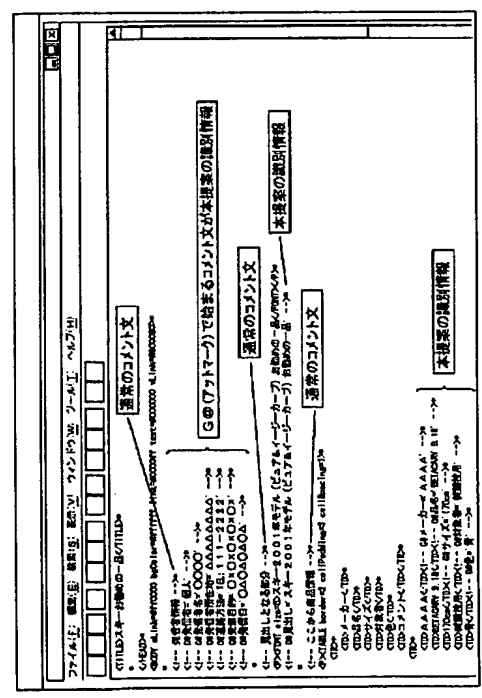
(21)出願番号	特願2000-375704(P2000-375704)	(71)出願人	500567184 有限会社ジェネシス 兵庫県川西市湯山台2丁目81番地の20
(22)出願日	平成12年12月11日(2000.12.11)	(72)発明者	安積 泰啓 兵庫県川西市湯山台2丁目81番地の20 有 限会社ジェネシス内
		(74)代理人	100064746 弁理士 深見 久郎 (外2名) Fターム(参考) 5B009 QA11 RB06 SA03 SA12 TB11 5B082 GC05 HA05 5B085 BE07 BG07

(54)【発明の名称】 ホームページ作成方法、ホームページ閲覧方法およびホームページの作成閲覧システム

(57)【要約】

【課題】 従来のブラウザに影響を及ぼすことなく、新たな付加価値を与え得るホームページの作成方法、閲覧方法およびホームページの作成閲覧システムを提供する。

【解決手段】 通常のブラウザでは認識しないコメント文領域に所定の記号等を付して情報を記述したホームページを作成する。一方、通常のブラウザとは異なる新しいブラウザを準備する。この新しいブラウザは所定の記号等を見つけたときは、その内容を図示の無い表示装置に表示する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 インターネット上のホームページを作成する方法であって、

前記ホームページは所定の書式の文章で作成され、  
前記所定の書式に第 1 のブラウザでは認識しないが、前記第 1 ブラウザと異なる第 2 のブラウザでは認識する特定のコマンドを設定するステップと、  
前記特定のコマンドを含む文章でホームページを作成するステップとを含む、ホームページ作成方法。

【請求項 2】 前記ホームページの作成者は前記ホームページの内容を特定し、  
前記特定した内容を、前記特定のコマンドで記述するステップを含む、請求項 1 に記載のホームページ作成方法。

【請求項 3】 前記ホームページは前記第 1 ブラウザで閲覧可能な第 1 部分と、前記第 2 ブラウザでのみ閲覧可能な第 2 部分とを含む、請求項 1 に記載のホームページ作成方法。

【請求項 4】 前記特定した内容を前記ホームページの検索に利用する、請求項 3 に記載の方法で作成したホームページを閲覧する方法。

【請求項 5】 前記第 2 ブラウザで前記ホームページを閲覧するステップを含む、請求項 1 に記載の方法で作成したホームページを閲覧する方法。

【請求項 6】 前記第 2 ブラウザを起動した時、前記第 2 ブラウザの閲覧モードを前記特定コマンドを認識するか否かを選択するステップをさらに含む、請求項 3 に記載の方法で作成したホームページを閲覧する方法。

【請求項 7】 インターネット上のホームページを閲覧する方法であって、  
前記ホームページは所定の形式のホームページ作成文書によって作成され、所定の第 1 ブラウザで閲覧した時、所定の画面上に表示され、  
前記ホームページ作成文書は前記所定の第 1 ブラウザで読み取ったとき、前記所定の画面への表示に関係する第 1 要素と関係しない第 2 要素とを含み、  
前記ホームページを閲覧する方法は、  
前記第 2 要素を前記所定の画面への表示に関係する要素であると認識する、  
前記第 1 ブラウザと異なる第 2 ブラウザを準備するステップと、  
前記第 2 ブラウザを用いて前記ホームページを閲覧するステップとを含む、ホームページを閲覧する方法。

【請求項 8】 インターネット上のホームページを作成・閲覧するシステムであって、  
前記ホームページは所定の書式の文章で作成され、所定の第 1 ブラウザで読み取られて所定の表示画像面上に表示され、  
前記所定の書式は前記第 1 ブラウザで読み取られたときに認識しない不認識コマンドを有し、

前記不認識コマンドを含む前記所定の書式でホームページを作成する手段と、

前記不認識コマンドを認識する前記第 1 ブラウザとは異なる第 2 ブラウザと、

前記第 2 ブラウザで前記不認識コマンドを含む前記所定の書式で作成されたホームページを閲覧する手段とを含む、ホームページの作成・閲覧システム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

10 【発明の属する技術分野】 この発明はインターネットのホームページを作成する方法、それを閲覧する方法およびホームページの作成・閲覧システムに関し、特に従来のシステムを活用しながらより有効利用のできるホームページ作成方法、ホームページ閲覧方法およびホームページの作成・閲覧システムに関する。

## 【0002】

20 【従来の技術】 現在インターネット上でホームページの作成には HTML (Hyper Text Markup Language) 書式で記載されている。現状のインターネットのホームページ閲覧システムは、ホームページに使用されている HTML 書式とは対となるブラウザと関連付けられた書式である。ホームページとして配信されたデータを誰でも閲覧できるようにするため、閲覧ソフトであるブラウザが認識できる書式として HTML が開発された。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来のホームページとその閲覧ソフトとの関係は上記のように構成されていた。

30 【0004】 ユーザは各種ホームページの中から所望の情報を得るためにサーチエンジン等を利用する。サーチエンジンはホームページから所定のキーワード等をもとに表示内容を区分して情報の検索をしやすいようにしている。

【0005】 しかしながら、従来のホームページを作成するソフトにおいては、ホームページは特に検索用に作成されているわけではないため、必ずしもサーチエンジンの検索項目とユーザの求めている検索項目とが一致するわけではない。また、ホームページの中には、たとえば未成年の閲覧が禁止されるような特定の人のみに閲覧が可能なホームページが存在するが、このようなホームページを従来の書式を用いて作成するにはホームページの構成が複雑になるという問題点があった。

【0006】 また、現在ホームページのユーザのほとんどが、プロバイダの有するホストコンピュータ上にデータを保存して使用している。したがってその使用料が発生している。このような場合にホームページを 2 つ以上同時に存在させるためには、新たにホスト使用料を支払う必要があり、ユーザにとって負担が大きくなるという問題点があった。

50 【0007】 また、このようなシステムを作成するのに

従来の仕組みを無視した新しいシステムを構築するのは簡単であるが、そのようなことをすると従来の資産が利用できないという問題点があった。

【0008】この発明は上記のような問題点を解消するためになされたもので、従来のホームページとその閲覧を行なうシステムに影響を及ぼすことなく、新たな付加価値を与える、ホームページ作成方法、ホームページ閲覧方法およびホームページの作成閲覧システムを提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】ホームページは所定の書式の文章で作成される。この発明にかかるインターネット上のホームページ作成方法は第1のブラウザでは認識しないが、第1ブラウザと異なる第2のブラウザでは認識する特定のコマンドを設定するステップと、特定のコマンドを含む文章でホームページを作成するステップとを含む。

【0010】この発明によれば、第1のブラウザでは認識しないが、第2のブラウザでは認識する特定のコマンドを含む文章でホームページを作成する。

【0011】通常の第1のブラウザが使用しない領域を利用してそこに第2のブラウザが認識できる文書を記録するため、従来のブラウザでは表示されないが、特定のブラウザではその内容が認識され、ホームページ上に表示される。

【0012】その結果、従来のブラウザに影響を及ぼすことはなく、新たな付加価値を与えるホームページのブラウジングシステムが提供できる。

【0013】第1のブラウザでは認識しない領域としてはたとえばコメント文領域である。好ましくは、ホームページの作成者はホームページの内容を特定し、特定した内容を、特定のコマンドで記述するステップを含む。

【0014】さらに好ましくは、ホームページは第1ブラウザで閲覧可能な第1部分と、第2ブラウザでのみ閲覧可能な第2部分とを含む。

【0015】さらに好ましくは、第2ブラウザでホームページを閲覧するステップを含む。この発明の他の局面においては、特定した内容をホームページの検索に利用する。

【0016】好ましくは、第2ブラウザを立ち上げた時、第2ブラウザの閲覧モードを特定コマンドを認識するか否かを選択するステップをさらに含む。

【0017】この発明の他の局面においては、インターネット上のホームページを閲覧する方法である。ホームページは所定の形式のホームページ作成文書によって、作成され、所定の第1ブラウザで閲覧した時、所定の画面上に表示され、ホームページ作成文書は所定の第1ブラウザで読み取ったとき、所定の画面への表示に係る第1要素と関係しない第2要素とを含む。閲覧方法は、第2要素を所定の画面への表示に係る要素であ

ると認識し、第1ブラウザと異なる第2ブラウザを準備するステップと、第2ブラウザを用いてホームページを閲覧するステップとを含む。

【0018】この発明のさらに他の局面においては、インターネット上のホームページを作成し、閲覧するシステムにおいては、ホームページは所定の書式の文章で作成され、所定の第1ブラウザで読み取られて所定の表示画像面に表示され、所定の書式は第1ブラウザで読み取られたときに認識しない不認識コマンドを有する。ホームページの作成閲覧システムは、不認識コマンドを含む所定の書式でホームページを作成する手段と不認識コマンドを認識する第1ブラウザとは異なる第2ブラウザと、第2ブラウザで不認識コマンドを含む所定の書式で作成されたホームページを閲覧する手段とを含む。

【0019】

【発明の実施の形態】以下この発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0020】図1はこの発明が適用されるWWW (World Wide Web) サーバ1とクライアント2a~2dとがインターネット3で接続された構成を示す模式図である。

【0021】ここでWWWとは、HTMLのようなハイパーテキストを用いたインターネット上の情報サービスのことをいう。

【0022】図2は図1に示したWWWサーバやクライアントの一般的構成を示すブロック図である。図2を参照して、サーバ1やクライアント2は、サーバ1やクライアント2全体を制御するCPU11と、CPU11に対してインターフェイス12を介して接続されたCRTなどの表示装置13と、所定のプログラムやデータを記憶するハードディスクのような記憶装置15と、キーボード、マウス等の入力装置16と、プリンタ等の出力装置17と、クライアントやサーバをインターネット3に接続するためのモデム等の通信装置18と、CD-ROMのような記録媒体に記録されたプログラムを読み込むためのCD-ROM駆動装置19とを含む。

【0023】まずこの発明の基本的概念について説明する。現在、ホームページ等の作成に広く使われているHTML書式の中には、たとえばコメント文領域のような直接コンピュータの表示画面への表示に関係の無い領域がある。このコメント文領域は、通常プログラム（ホームページ作成者）が覚書等の、プログラムを製作するにあたり、プログラムに影響しない範囲（本文外）に記述しておく領域である。当然この領域を定義するコメントタグが存在し、その領域内は本文とは完全に分離され、ブラウザは表示しないように設定されている。このため、この領域内にどのようなデータが存在しても、ブラウザには何ら影響を与えないし、通常のブラウザを使用し、ホームページを閲覧するユーザにはその内容を確認することはできない。

【0024】そこでこの発明においては、この領域に記

述されたデータを識別することにより、そのデータを活用して現在以上の機能を持ったホームページ、ブラウザ、検索システムを提供するものである。

【0025】以下具体的に説明する。図3は、具体的な「コメント文」を含む従来のHTML文書を示す図であり、図4はこのHTML文書をブラウザで表示させた場合の表示例を示す図である。

【0026】図1を参照して、<!-- -->で囲まれた部分がブラウザが認識しない（できない）コメント文である。通常このコメント文はプログラマが文書の内容をわかりやすくするために用いる。

【0027】図4を参照して、コメント文は画面上には表示されない。図5はこの発明に係る書式で作成したHTML文書を示す例である。図5を参照して、このHTML文書の中で<!-- -->で囲まれた部分を上記同様、通常のコメント文である。これとは別に<!--

G@・・・ -->というようにコメント文がG@で始まるものをこの発明に係る書式で定義された識別情報であるとする。この識別情報をデータベースとして蓄えることにより、従来より効率のよい、しかも詳細なデータとして検索結果を提供することが可能となる。

【0028】<!--G@・・・ -->の部分はコメント文なので、このHTML文書を既存のブラウザで表示させた場合にも、図3のHTML文書と同様図4のように表示される。

【0029】図6はこの発明に係る書式を用いたHTML文書例を示す図である。この中には、通常のコメント文とG@で始まるコメント文が存在する。このHTML文書を既存のブラウザで表示させると図4に示したように表示される。もちろんコメント文は表示されない。次にこの文書のG@で始まるコメント文を識別して表示することのできる、この発明にかかるシステム用の専用のブラウザで表示させた場合は図7に示すようになる。表の文書は図3、裏の文書は図7という具合に専用ブラウザを使用することによって文書の表裏を切り替えることができる。

【0030】この場合、専用ブラウザは、G@で始まるコメント文を識別して、そこに書かれた内容を画面に表示する。

【0031】次にこの発明に係る書式におけるデータの属性について説明する。図8は図5に示したHTML文書の属性定義の一例を示す図であり、図9は図6に示したHTML文書の属性定義の具体例を示す図である。

【0032】図8を参照して、そこでは、発信者の属性が個人なのか法人等の団体なのかとか、発信者名や、所在地、連絡方法としての電話番号や、ホームページの発信目的や、発信日や、見出し等が定義されている。

【0033】図9を参照して、そこでは、この発明に係るブラウザで認識可能な情報について定義されている。

【0034】次にこの発明に係る書式を用いたホームペ

ージの作成方法について説明する。図10はこの発明に係る書式を用いてホームページを作成する場合の作成手順を示すフローチャートである。

【0035】図10を参照して、まず通常のHTML文書におけるコメント文作成領域を準備する（S11）。

【0036】次いでこのコメント文領域に「G@」で始まる文書を図5や図7に示すように作成する（S12）。

【0037】なお、ここでこの発明に係るコメント文における識別情報をG@で始まる文書としたが、これに限られず、任意の記号等を用いてもよい。また、コメント文作成領域に先だって、後に説明する閲覧モードの設定等を行なってもよい。

【0038】次にこの発明に係る書式で作成された文書を閲覧する方法について説明する。図11はこの発明に係る閲覧ソフトの基本的な作動内容を示すフローチャートである。

【0039】図11を参照して、閲覧ソフトはまず閲覧モードの設定を行なう（S21）。ここで閲覧モードの設定とは、通常の、既存のHTML文書のみを認識するモードであるのか、この発明に係るコメント文領域を認識する閲覧モードであるのかを設定する。この設定は具体的にはブラウザの閲覧開始前に設定しておくものとする。

【0040】次にモードに応じて処理が分かれる（S22）。既存のブラウジングモード、すなわち、HTMLを認識するモードのときは（S22でモードA、従来のブラウザ読取モードであるため、コメント文があれば（S23でYES）、その部分を飛ばして次の処理に移り、コメント文がなければ（S23でNO）、その領域の文書を読取り（S24）、所定の処理を行なう（S25）。この処理をHTML文書が終了するまで続ける（S26）。

【0041】次に新しいブラウジングモードのときは（S22でモードB）、まずコメント文であるか否かが判断される（S31）。コメント文であると判断されたときは（S31でYES）、次にそのコメント文の中に所定の記号が含まれているか否かが判断される（S32）。所定の記号が含まれていれば（S32でYES）、その記号で特定された内容の所定の処理が行なわれる（S33）。

【0042】S31でコメント文でないと判断されたときは（S31でNO）、通常のHTML書式における処理と同様に所定の処理が行なわれる（S33）。

【0043】これがHTML文書の終了まで行なわれる（S34）。次に具体的に説明する。まず、この発明に係る書式を用いたホームページの詳細検索を行なう場合の手順について説明する。図12はホームページ詳細検索の手順を示すフローチャートである。

【0044】図12を参照して、まずホームページ作成



者は、コメント文を所定のコマンドとして認識する、本システム専用のホームページ作成ソフトを利用してホームページを作成する（S41）。

【0045】検索サーバへは、詳細情報を送付する（S42）。ここで詳細情報の具体例については、図8、図9に示したとおりである。

【0046】検索サーバでは、集められた詳細情報をデータベース化する（S43）。閲覧者は、ブラウザを使用して、上記データベースに問合せ（検索）を行なう（S44）。問合せの内容は、図8、図9に示すとおりである。識別情報にあるような具体的な内容をキーワードとして行なわれる。

【0047】閲覧者のブラウザ上に、問合せの結果が表示される（S45）。閲覧者は上記結果から、興味のある内容が掲載されているホームページへ移動する（S46）。

【0048】なお、作成したホームページは作成者がホームページファイルを各自のプロバイダへ予め送付しているものとする（S47）。

【0049】次に上記のホームページの検索の例においてホームページを多重化した場合について説明する。

【0050】図13はホームページが多重化している場合の処理の流れを示すフローチャート（B）とHTML文書例（A）を示す図である。

【0051】ホームページの多重化においては、1つのホームページにおいて内容の異なる複数の表示が可能になる。

【0052】まず、閲覧者は専用のブラウザを起動して通常モードまたは多重モードいずれかを表示モードとして設定し、所望のURLを指定する（S61）。

【0053】指定されたURLのWebサーバは、閲覧者にHTMLファイルを送信する（S62）。

【0054】閲覧者側では表示モードによって以降の処理を決める（S63）。すなわち、通常モードであれば通常表示される文字列が表示される。具体的には、図13（A）に示すようにHTML文書が表記されていれば、商品価格：1000円と表示される。

【0055】S63で多重モードであれば（S66）、HTMLファイルを解析して（S67）、通常表示される文字列に加えて、専用ブラウザの多重モードでのみ表示可能な文字列が表示される。具体的には、「会員特別価格500円」という文字列も表示される。

【0056】次にホームページの多重化において暗号化を施した場合について説明する。図14（A）はこの場合のHTML文書例を示し、（B）は処理の流れを示すフローチャートである。

【0057】まず、閲覧者は上記と同様に、専用ブラウザを起動し、表示モード（通常モード／多重モード）を設定し、暗号解読コードを指定してURLを指定する（S71）。

【0058】Webサーバは、HTMLファイルを送信する（S72）。表示モードによって以降の処理を決める（S73）。

【0059】通常モードであれば、通常表示される文字列のみが表示される。具体的には、「商品価格：1000円」が表示される。

【0060】S73で多重化モードのときは、ブラウザがHTMLファイルを解析して（S77）、暗号解読を行なう（S78）。この場合、コメント文中にCryptとある場合は、暗号化を表わす。

【0061】予めユーザが所定の手続を済ませて暗号化に対応できるようになっている場合は、通常表示される文字列に加えて、専用ブラウザの多重モードでのみ表示可能な文字列が表示される。具体的には、図14（A）に示した「xS2k1S934eDmFL」という文字列が解読されて会員特別価格500円と表示される。

【0062】なお、暗号解読コードは予め、閲覧者に知らせてあるものとする。次にこの発明に係るシステムのさらなる変形例について説明する。ホームページがさらに多重化された場合について図15を参照して説明する。

【0063】ホームページ作成者は、本システム専用のホームページソフトを利用して、ホームページを作成する（S51）。

【0064】検索サーバへは、詳細情報を送付する（S52）。詳細情報の具体例については、図8、図9に示すとおりである。

【0065】検索サーバでは、集められた詳細情報をデータベース化する（S53）。閲覧者は、ブラウザを使用して上記データベースに問合せ（検索）を行なう。問合せの内容は、図8、図9に示す、識別情報にあるような具体的な内容をキーワードとして行なわれる。

【0066】閲覧者のブラウザ上に問合せの結果が表示される（S55）。専用のブラウザを使用して、問合せを行なった場合の結果には、多重化技術で示されるような、閲覧者にとって価値の高い情報も提供される。

【0067】閲覧者は、上記結果から興味のある内容が掲載されているホームページへ移動する（S56）。

【0068】なお、作成したホームページは、ホームページ作成者が各自のプロバイダへ予め送付しておく（S57）。

【0069】次に上記の例に置ける具体例について、全く異なる内容を表示する場合について説明する。

【0070】図16（A）はこの場合のHTML文書例を示し、（B）はこの場合の処理手順を示すフローチャートである。

【0071】まず、閲覧者は専用ブラウザでURLと表示したい2つ目または3つ目等のコメント文を指定する。図16（A）に示し例では、Document1またはDocument2を指定する。

【0072】WebサーバはHTMLファイルを送信する(S82)。閲覧者側では、受信したHTMLファイルを解析する(S83)。

【0073】その結果、専用のコメント文がないときは(S84)、通常のホームページを表示する(S85)。

【0074】専用のコメント文があるときは(S86)、自動的に該当する部分が表示される。

【0075】この場合は、<!--G@Document1-->および<!--G@Document2-->が該当する。

【0076】以下この処理を繰返す。次にさらに他の例として、表示したいページを間接的に指定する場合について図17を参照して説明する。

【0077】まず閲覧者は、専用ブラウザでURLと表示したい2つ目または3つ目のタイトルを指定する。

【0078】図17(A)に示す例においては、スポーツまたは音楽を指定する。Webサーバは、HTMLファイルを送信する(S92)。

【0079】クライアントでは、受信したHTMLファイルを解析する(S93)。閲覧者側では専用のコメント文または該当するタイトルがないときは、通常のホームページを表示する(S94、S95)。

【0080】専用のコメント文中に該当するタイトルがあるときは、自動的に該当する部分を表示する(S96、S97)。

【0081】この場合、該当するタイトルとは、<!--G@Document1=スポーツ-->および<!--G@Document2=音楽-->が該当する。

【0082】以下この処理を繰返す(S98)。次にホームページ多重化のさらに他の例として、暗号化を施した場合について図18を参照して説明する。ここでは図16に示した例を引用するが、図17に示した例についても同様である。

【0083】閲覧者側では、専用ブラウザでURLと表示したい2つ目または3つ目のコメント文を指定および暗号解読コードを指定する(S101)。

【0084】ここでは、Document1またはDocument2を指定する。WebサーバはHTMLファイルを送信する(S102)。

【0085】閲覧者側では、受信したHTMLファイルを解析する(S103)。専用のコメント文または該当するタイトルがない場合または解読不能の場合は、通常のホームページを表示する(S104、S105)。

【0086】専用のコメント文があるときは、自動的に該当する部分を解読して表示する(S106、S107)。

【0087】ここで、専用のコメント文とは、<!--G@Document1, Crypt-->および<!--G@Document2, Crypt-->が該当し、Cryptという文字列は暗号化を表わす。

【0088】以下上記処理を繰返す(S108)。次に多重化ホームページにおける切替機能について説明する。図19は多重化ホームページ切替機能の手順を示すフローチャートである。

【0089】ここでは、予めホームページにおいてページ名等が設定されている場合について説明する。

【0090】Webサーバ上のホームページにおいてはページ名および必要に応じてパスワード、解読キーを設定する(S111)。ここで設定の方法としては、クライアントがアクセスしたときの設定画面による設定、ブラウザ上での設定および別ソフトウェアでの設定等がある。

【0091】閲覧者はURLを指定し、ホームページを参照する(S112)。専用ブラウザはHTMLファイルを解析する(S113)。指定されたページ名がない場合はそのまま戻り、ある場合はパスワード、解読、キーの確認を行なう(S115)。

【0092】指定されたページ名がない時や(S114でNO)、パスワード、解読キーの確認ができなかったときは(S115でNO)、専用ブラウザは次の処理のために待機状態に戻る。

【0093】パスワード、解読、キーの確認ができたときは(S115でYES)、指定されたページを表示する(S116)。

【0094】次に閲覧の途中で設定する場合について説明する。図20はこの場合の処理手順を示すフローチャートである。

【0095】図20を参照して、閲覧者はまずURLを指定し、ホームページを参照する(S121)。

【0096】専用ブラウザはHTMLファイルを解析する(S122)。多重化されたページであるか否かが判断される(S123)。

【0097】多重化されたページであるときは(S123でYES)、ブラウザ中または別のウィンドウにページの一覧が表示される(S124)。

【0098】閲覧者はページを選択し、必要に応じてパスワード、解読キーを設定する(S125)。ここで設定の方法の例としては、設定画面による設定、ブラウザ上での設定および別ソフトウェアでの設定等がある。

【0099】次いでパスワード、解読キーの確認を行なう(S126)。パスワード、解読キーの確認ができたときは(S126でYES)、指定されたページを表示する(S127)。

【0100】S123で多重化されたページでないときは(S123でNO)、S126でパスワード、解読キーの確認ができなかったときは(S126でNO)、プログラムはリターンする。

【0101】なお、一度設定を行なうと、設定内容がブラウザまたは別ソフトウェアに記憶され、次の閲覧時には選択のみで閲覧可能となるものとする。

【0102】図21は図17～図19で示した設定方法の例を示す図である。(A)は設定画面による設定手順を示し、(B)はブラウザ上での設定手順を示し、(C)は別ソフトウェアでの設定を示す。

【0103】設定画面による設定においては、まずブラウザ上のメニューおよびボタン等から「設定」の機能を選択する(S131)。

【0104】別ウィンドウおよびブラウザ内の表示領域に、設定画面が表示される(S132)。

【0105】ページ名欄に、指定したいページ名を入力する。過去に設定したページを選択することもできる(S133)。

【0106】必要であれば、パスワード入力欄および解読キー入力欄にパスワードおよび解読キーを入力する(S134)。

【0107】次にブラウザ上での設定について説明する。ブラウザ上での設定を行なうときは、ページ名入力欄に、指定したいページ名を入力する。過去に設定したページを選択することもできる(S141)。

【0108】必要であれば、パスワード入力欄および解読キー入力欄にパスワードおよび解読キーを入力する(S142)。

【0109】次に別ソフトウェアでの設定について説明する。別ソフトウェアでの設定を行なうときは、ページ名入力欄に指定したいページ名を入力する。過去に設定したページを選択することもできる(S151)。

【0110】必要であれば、パスワード入力欄および解読キー入力欄に、パスワードおよび解読キーを入力する(S152)。

【0111】なお、ここで別ソフトウェアとは、ブラウザと、Webサーバの間に位置し、経路の途中でデータを中継するものであり、ユーザのコンピュータ上に配置される。一般にはプロキシという。

【0112】また、閲覧中に、設定を行なおうとした場合は、閲覧中または閲覧しようとするページ名および、過去に設定がなされていればパスワードおよび解読キーも表示される。

【0113】なお、上記実施の形態においては、コメント文を用いて所定の動作を行わせる例について説明したが、これに限らず、ホームページの作成に用いられている書式であって、プログラムに影響しない任意の書式を用いてもよい。

【0114】今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味お

よび範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【図面の簡単な説明】

【図1】 WWWサーバとクライアントがインターネットで接続されている状態を示す図である。

【図2】 サーバやクライアントの一般的構成を示す図である。

【図3】 通常のコメント文の使い方を示す図である。

【図4】 図1に示したHTML文書の画面表示例を示す図である。

【図5】 この発明に係る機能を含めたHTML文書を示す図である。

【図6】 この発明に係る新しい機能を有するHTML文書の表示例を示す図である。

【図7】 図6に示したHTML文書の画面表示例を示した図である。

【図8】 HTML文書の属性の定義を示す図である。

【図9】 HTML文書の属性の定義を示す図である。

【図10】 ホームページの作成手順を示すフローチャートである。

【図11】 ホームページの閲覧手順を示すフローチャートである。

【図12】 ホームページの詳細検索手順を示すフローチャートである。

【図13】 多重化と組合せたホームページの詳細検索手順を示す図である。

【図14】 表示内容自体に違いを持たせた場合の処理手順を示すフローチャートである。

【図15】 暗号化を施した場合のホームページの閲覧手順を示すフローチャートである。

【図16】 全く異なる内容を表示する場合の処理手順を示すフローチャートである。

【図17】 表示したいページを間接的に指定する場合の処理手順を示すフローチャートである。

【図18】 暗号化を施した場合の処理手順を示すフローチャートである。

【図19】 多重化ホームページの切換機能手順を示すフローチャートである。

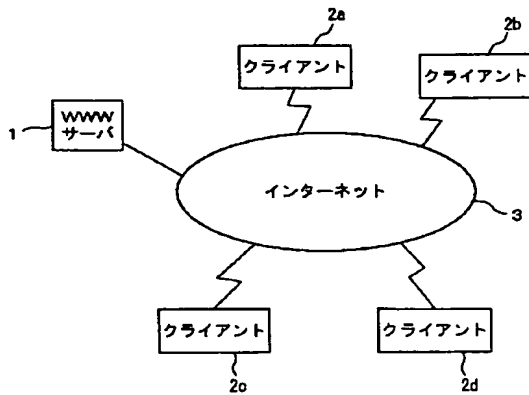
【図20】 多重化ホームページの切換機能手順を示すフローチャートである。

【図21】 各種設定の手順を示すフローチャートである。

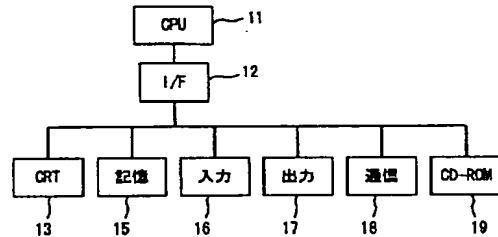
【符号の説明】

11 CPU、12 インターフェイス、13 表示装置、15 記憶装置、16 入力装置、17 出力装置、18 通信装置。

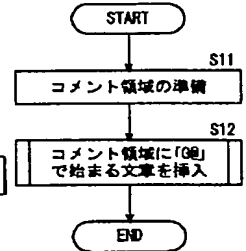
【図 1】



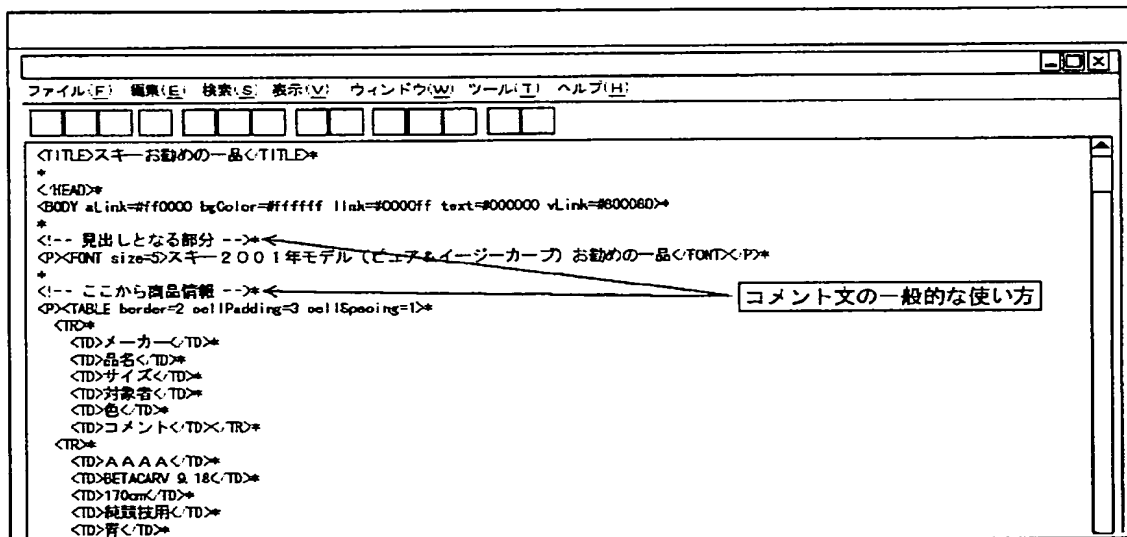
【図 2】



【図 10】



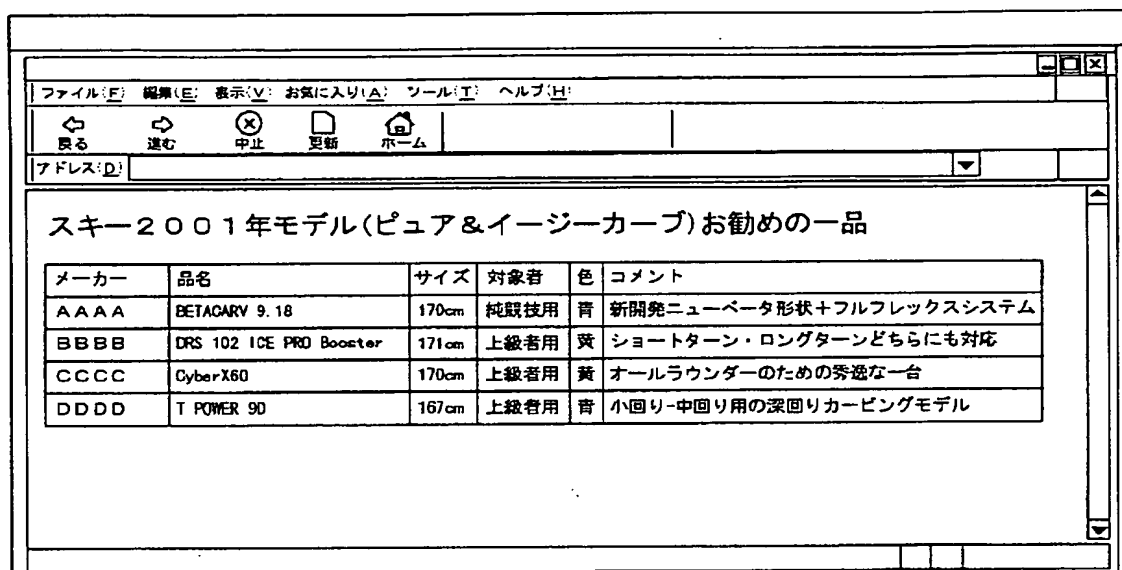
【図 3】



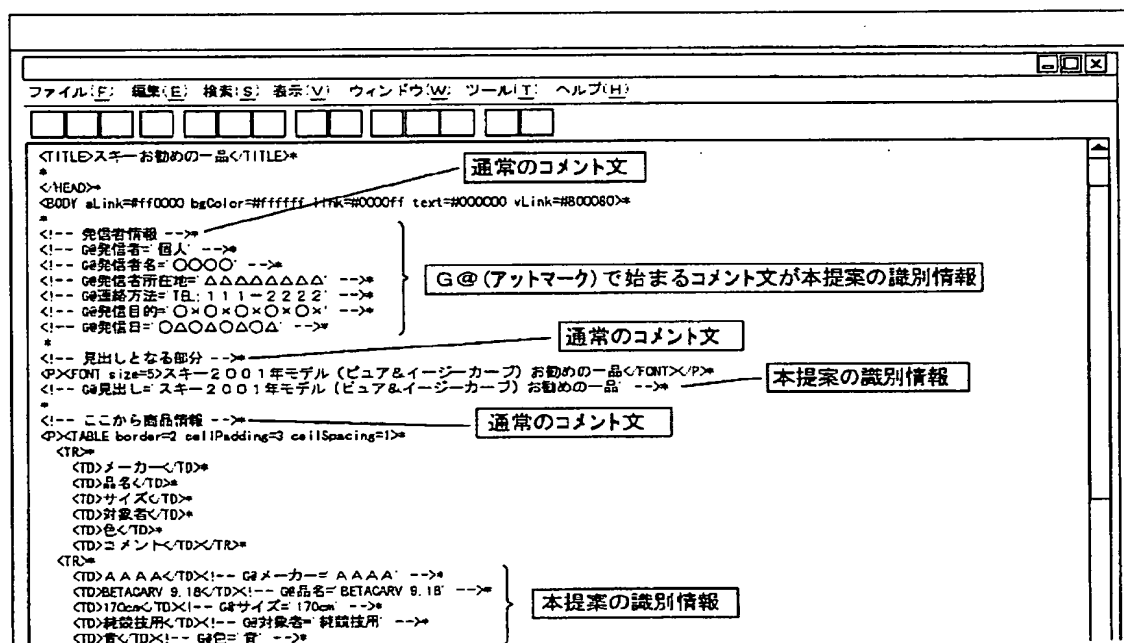
【図 8】

G@発信者='個人'
G@発信者名='0000'
G@発信者所在地='△△△△△△△△'
G@連絡方法='TEL:111-2222'
G@発信目的='OxOxOxOx'
G@発信日='0000000000'
G@見出し='スキー2001年モデル(ビュア&イージーカーブ)お勧めの一品'
G@メーカー='A A A A'
G@品名='BETACARV 9.18'
G@サイズ='170cm'
G@対象者='純競技用'
G@色='青'
G@コメント='新開発ニューベータ形状+フルフレックスシステム'
G@メーカー='B B B B'
G@品名='DRS 102 ICE PRO Booster'
G@サイズ='171cm'
G@対象者='上級者用'
G@色='黄'

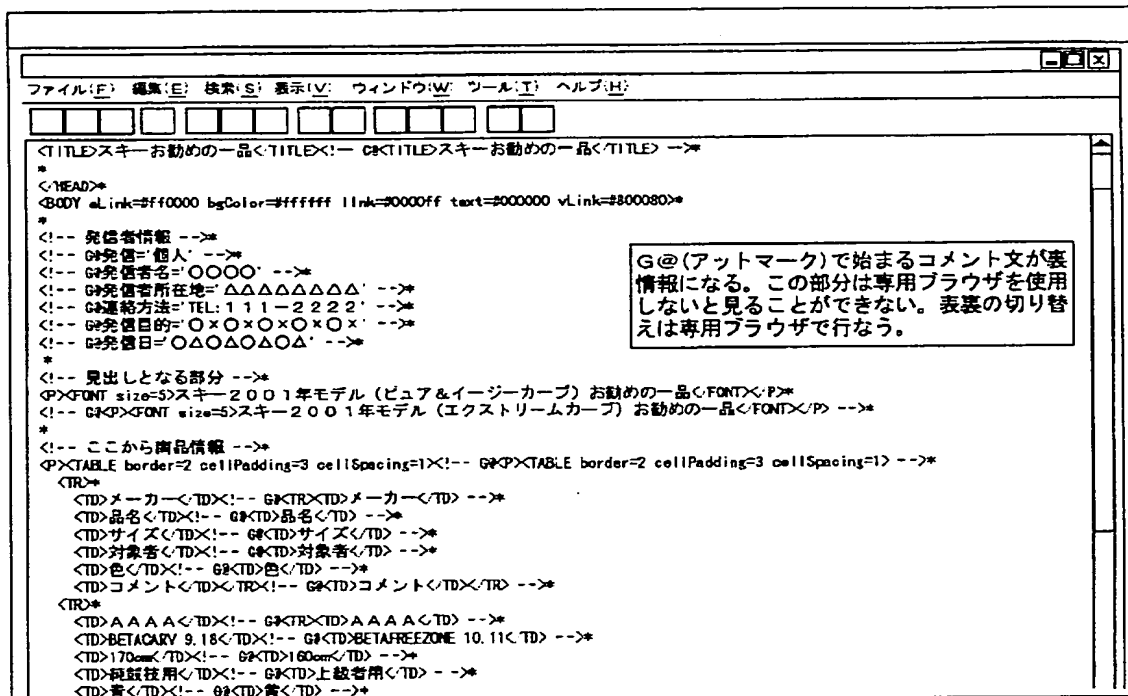
【図 4】



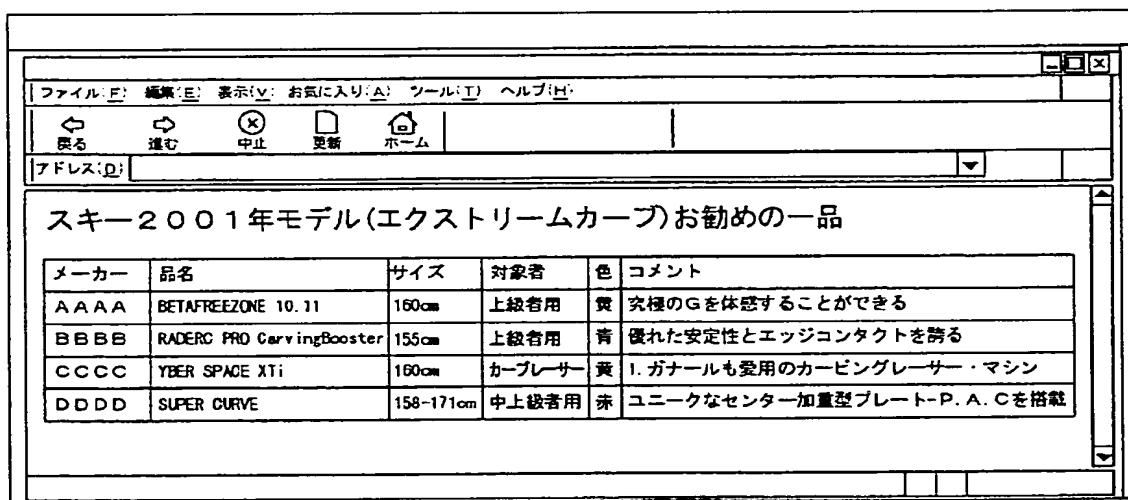
【図 5】



【図 6】



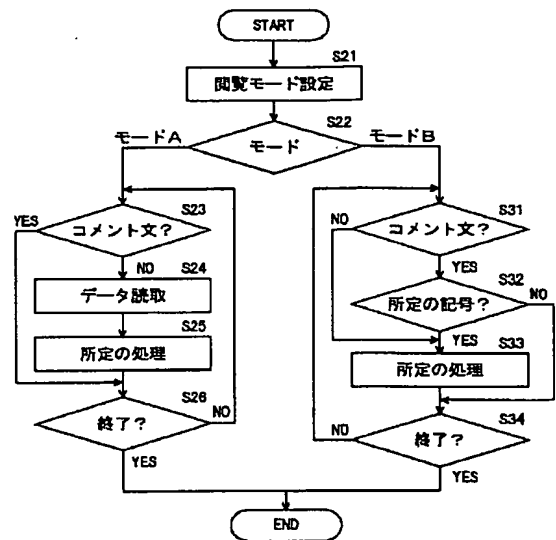
【図 7】



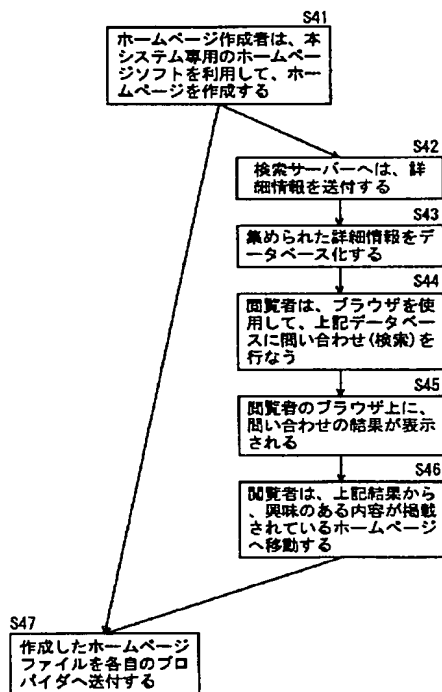
【図9】

G@<TITLE>スキーお助めの一品</TITLE>
G@<発信者>=個人
G@<発信者名>=〇〇〇〇
G@<発信者所在地>=△△△△△△△△
G@<連絡方法>=TEL:111-2222
G@<発信目的>=〇×〇×〇×〇×
G@<発信日>=〇△〇△〇△〇△
G@<FONT size>=5スキー2001年モデル(エクストリームカーブ)お助めの一品</FONT></P>
G@<TABLE border=2 cellPadding=3 cellSpacing=1>
G@<TR><TD>メーカー</TD>
G@<TD>品名</TD>
G@<TD>サイズ</TD>
G@<TD>対象者</TD>
G@<TD>色</TD>
G@<TD>コメント</TD></TR>
G@<TR><TD>A A A A</TD>
G@<TD>BETA FREEZONE 10.11</TD>
G@<TD>160cm</TD>
G@<TD>上履者用</TD>
G@<TD>黄</TD>
G@<TD>究極のGを体験することができる</TD></TR>
G@<TR><TD>B B B B</TD>
G@<TD>RADERO PRO CarvingBooster</TD>
G@<TD>155cm</TD>

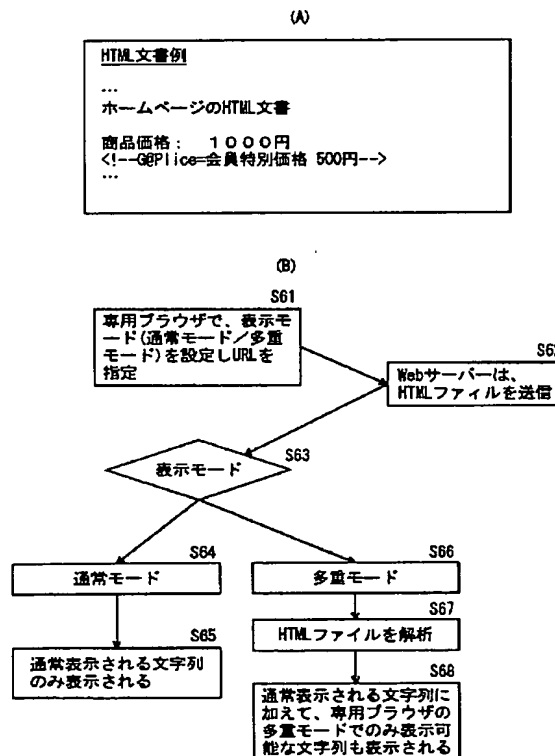
【図11】



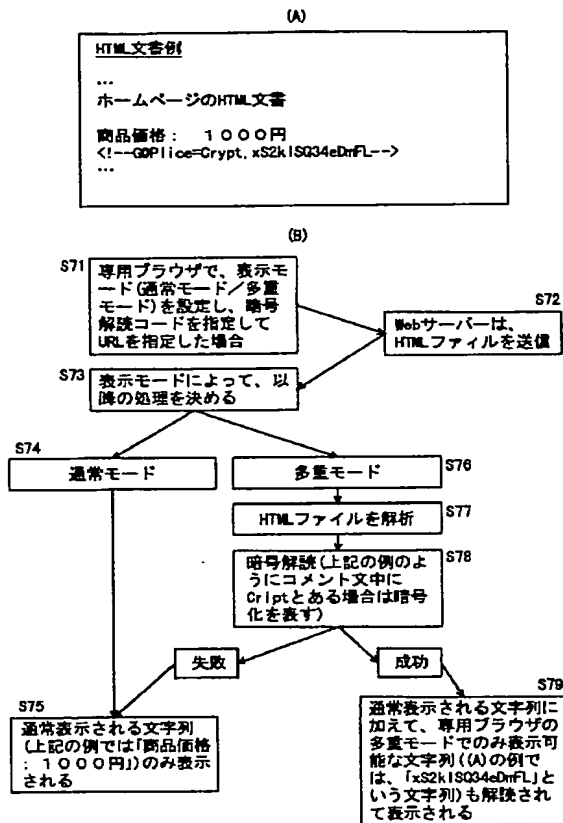
【図12】



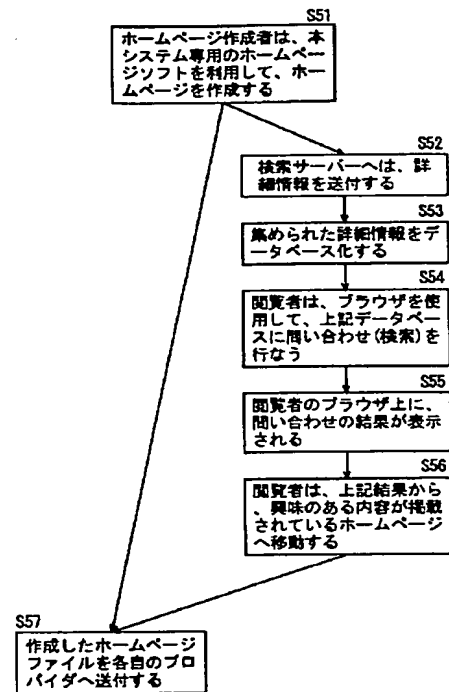
【図13】



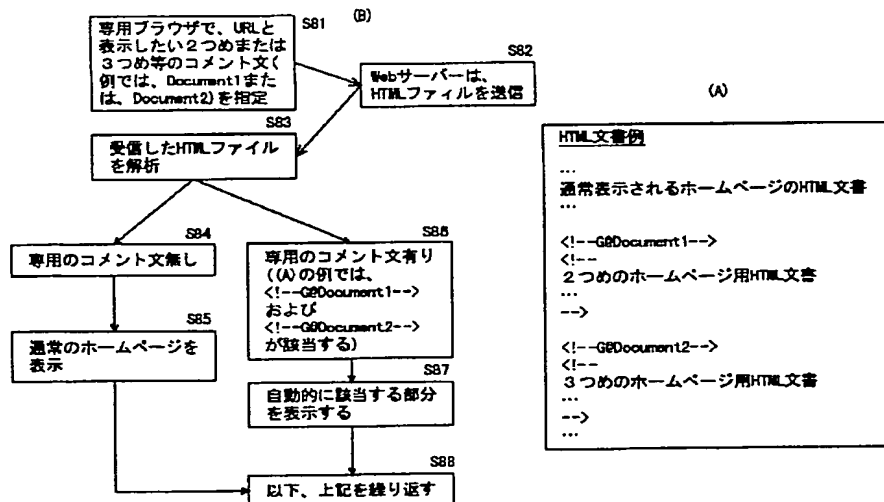
【図14】



【図15】

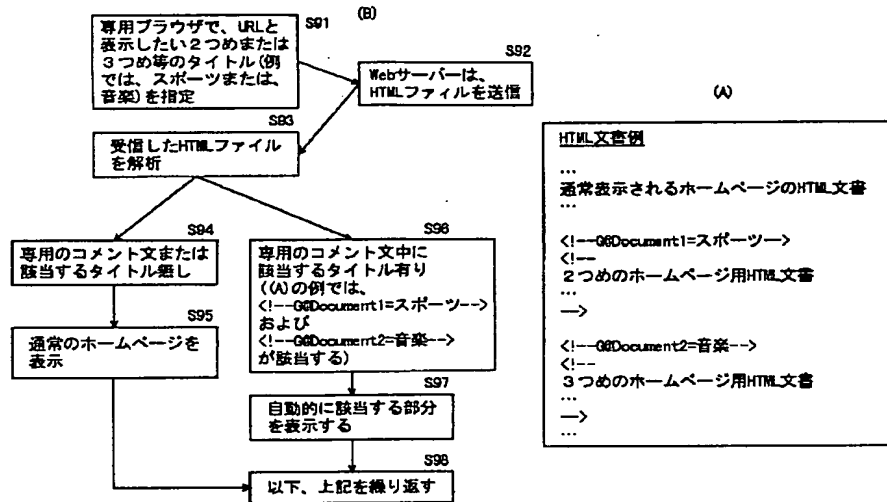


【図16】

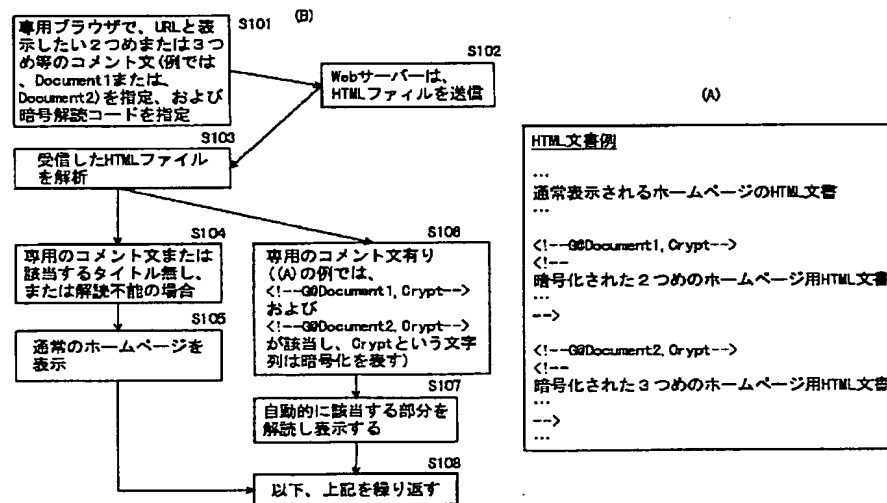




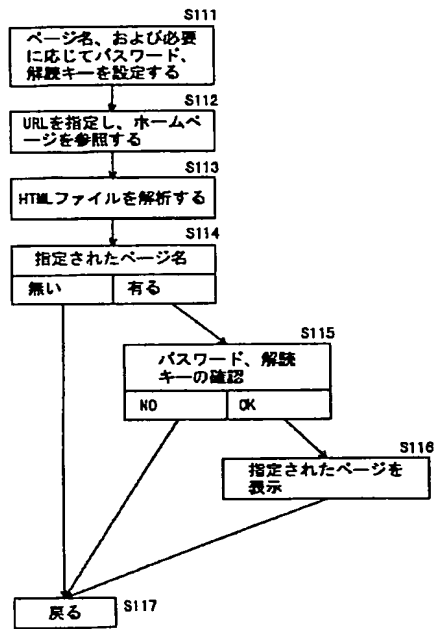
【図17】



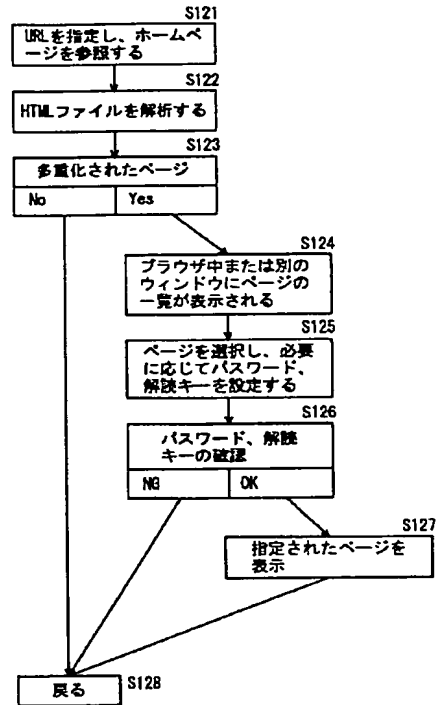
【図18】



【図 19】



【図 20】



【図 21】

